

平成 1 8 年度 ~ 2 0 年度
コミュニティスクール調査研究事業
調査研究報告（3 カ年の総括）

四日市市立中部中学校

1. コミュニティスクール（学校運営協議会）のねらい

本校の教育目標は「美しく生きる」である。その実現に向けて、学校・家庭・地域が一体となって「地域の生徒は地域で育てる」ための取組を進め、地域に開かれ信頼され、地域に支えられる学校づくりを目指している。

これまでも、本校の学校運営や教育活動の方針などを広く保護者に理解していただくため、学校づくりビジョンのリーフレットを作成し、保護者に配布するとともに、PTA総会において学校長から説明を行ってきた。また、このことは学校評議員にも承認をいただきながら進めてきた。

しかし、より一層、学校・家庭・地域が一体となり本校の学校づくりビジョンを推進していくためには、保護者や地域の皆さんに一定の権限と責任を持って学校運営に参画していただくことが必要であると考えた。

そこで、四日市市教育委員会が推進しているコミュニティスクール（学校運営協議会）の調査研究推進モデル校の指定を受け、保護者や地域の皆さんの声を反映した教育活動を進めてきた。

本校のコミュニティスクール（学校運営協議会）は、次の点をねらいとして進めている。

- ・ 保護者や地域の皆さんの意向を学校運営や教育活動に反映させていきます。
- ・ 学校運営協議会の参画と支援を得て、学校づくりビジョンの重点指導方針の実現を図っていきます。
- ・ 地域の人材を教育活動に生かす取組を進めていきます。
（職場体験・総合的な学習の時間・選択教科・地域スペシャル授業等）
- ・ 保護者や地域の皆さんに学校の様子を進んで公開するとともに、学校評価についての取組を進めていきます。

2. コミュニティスクール（学校運営協議会）の組織・運営について

これまで中学校は、小学校と比べると保護者・地域住民の皆さんとかかわりをもつ機会が少なく、本校においても、まず、学校・家庭・地域が一体となって「地域の生徒は地域で育てる」ための組織体制づくりからの始める必要があった。

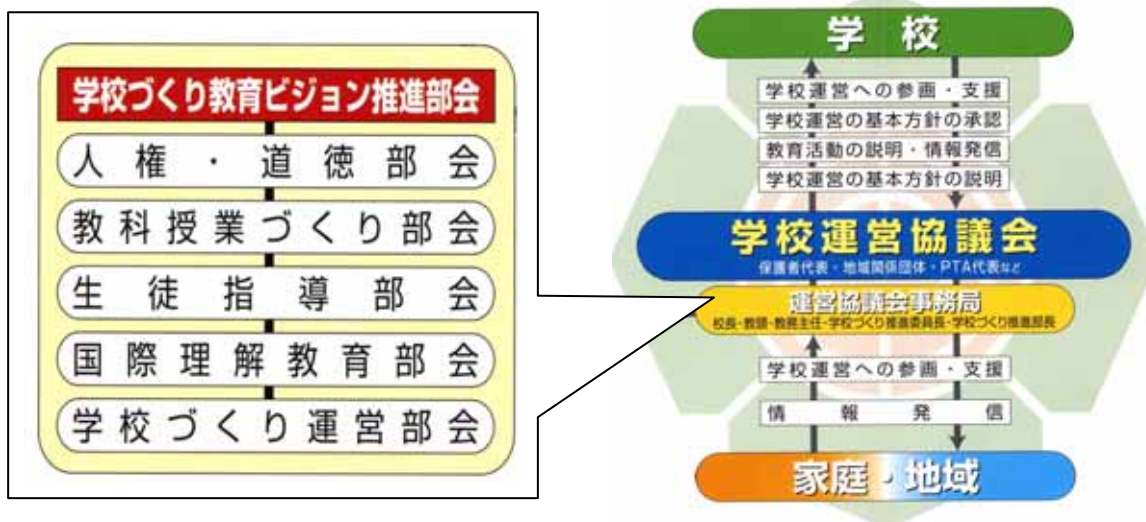
コミュニティスクール（学校運営協議会）の運営についても分からない点が多く、先進地である京都市に視察や研修に出向き参考としながらも、本市の中心部にあり、伝統のある地域に立地する本校にあった運営方法、保護者や地域の皆さんの意向を学校運営や教育活動に反映させていくシステムの構築に努めてきた。

1年目については、学校の実態を伝えていくことに重点を置き、学校づくりビジョンの進捗状況や外国籍生徒受け入れ拠点校としての課題等を地域の皆さんに知っていただく機会とした。また、これまで主に学校が進めてきた職場体験学習や地域スペシャリストの取組についてもその活動を理解していただくことを機会に学校運営協議会を通じて地域の教育力を取り入れることにつなげていこうと試みた。

2年目には、学校づくりビジョンの推進に学校運営協議会が一定の責任を持って学校運営に参画していくためには、学校運営協議会からの提言を学校運営や教育活動に迅速に反映する仕組みが必要であると考え、学校組織（校務分掌）の見直しを図った。

次の図のとおり、学校づくりビジョンと学校運営協議会を一体化するために、学校組織

(校務分掌)を 人権・道徳部会、教科授業づくり部会、生徒指導部会、国際理解教育部会、学校づくり部会の5部会に改革した。各部会の推進部長が学校運営協議会に参加し、各部会から教育活動の提案を行い、検討 実施 評価というシステムを構築してきた。



3年目となる本年度は、この組織の定着とともに全職員が5部会のいずれかに所属することにより、学校運営協議会と職員会・教育活動の一体化が見られるようになった。各部会別会議 5部長会議 職員会議 運営協議会の協議ラインが定着しつつある。

学校運営協議会に5部会の推進部長が参加することで、毎回の協議で各部会の活動提案や報告がなされ、委員の皆さんに教育活動をより深く把握・理解していただくことができるようになった。また、委員の皆さんからの提言をスムーズに部会単位におろし検討ができるので、教育活動にすばやく反映・対応できるようになった。

3. コミュニティスクール(学校運営協議会)による成果について

(1) 教育活動の実践事例

「地域スペシャリスト授業」

委員の皆さんを通じて地域との連携が広がり、地域在住の「その道の達人」を講師とした授業を行っている。

この授業では、地域の伝統文化にふれたり、その人の生き方について考えを深めたりするよい機会となっている。



「職場体験活動」

市内全中学校で実施されている活動であるが、本校においては、委員の皆さんに体験先を紹介していただいている。職場体験当日は、生徒がお世話になっている事業所を訪問していただき、生徒への励ましのお声かけや事業所の方々との情報交換をお願いし、学校と事業所のパイプ役を担っていただいている。



「部活動見学会」

学校運営協議会からの提言により、実現した行事の一つ。

本校の校区にある2つの小学校の6年生を対象とした見学会を実施。6年生に中学校の雰囲気を感じてもらいよい機会となっており、保護者にも好評である。



(2) コミュニティスクール（学校運営協議会） の取組による効果

学校への波及効果

- ・ 以前は、「学校運営協議会は、何をするとところなのか」というような認識である職員も一部あったが、前述のように全職員が各部会に所属し協議会と直接・間接的に関わっていることから、全職員の共通理解が深まり、学校づくりビジョンを推進する大きな力となっている。
- ・ 委員の皆さんには、人権・道徳の公開授業をはじめ、体育祭・文化祭など機会あるごとに参観していただくことで教職員に適度な緊張感を与えている。また、教職員とは違った視点から感想をいただくことは、学校に新たな気づきをもたらし、学校改善の切り口となっている。
- ・ 保護者・地域の代表としての委員の皆さんに教育活動や生徒の様子について十分なご理解をいただき、さらに学校を信頼いただいていることは、教職員にとっても学校づくりビジョンを推進し、ぶれのない教育活動を進めていくための強い支えとなっている。



生徒・保護者への波及効果

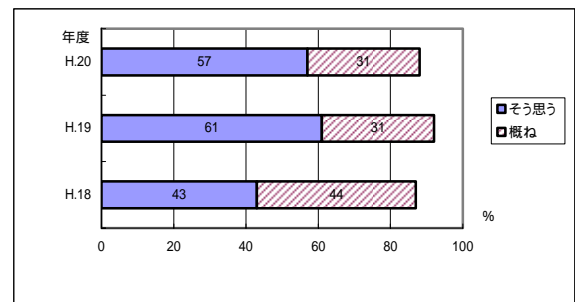
- ・ グラフ のとおり、「学校は楽しいですか」の設問に対して、「そう思う」と回答した生徒の割合は、コミュニティスクール初年度の平成18年度と平成19～20年度を比べると、15ポイント以上が高くなっている。
- ・ グラフ のとおり、「学校は授業や行事を公開したり、地域や保護者の意見を聞いたりしていますか」の設問に対して、平成18年度と平成19年度を比べると、「そう思う」と回答した保護者の割合が30ポイント以上に高くなっている。

これらのことは、学校運営協議会の活動を通して、生徒や保護者・地域のニーズを把握しながら、学校改善に努めた結果、生徒・保護者の満足度が高まった結果であると考える。

- ・ グラフ のとおり、「地域や保護者の皆さんに授業や行事などを参観していただくことはよいことである」との設問に対して、「そう思う」と回答した生徒の割合は、コミ

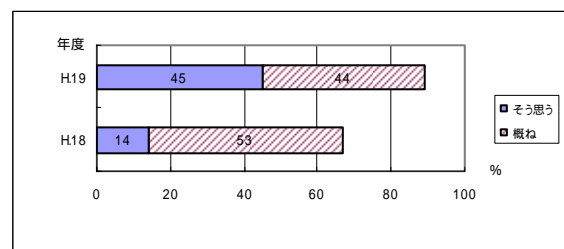
<グラフ> 学校生活は楽しいですか

(H.18～20年度 生徒アンケートより)



<グラフ> 学校は授業や行事を公開したり、地域や保護者の意見を聞いたりしていますか

(H.18～19年度 保護者アンケートより)



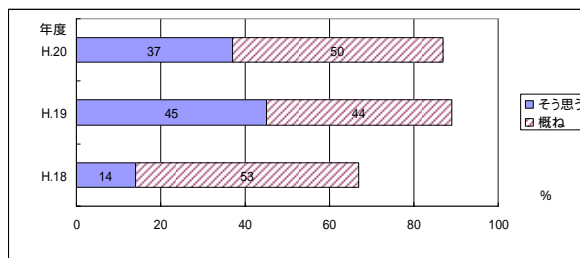
(H.20年度は設問変更のため比較できず)

ユニティスクール初年度の平成18年度と平成19～20年度を比べると、20ポイント以上が高くなっており、教職員以外の大人が学校に入り、活動を見守っていただいたり、声をかけていただいたりすることは、生徒にとってプラスの環境となって働いているものと考えられる。

地域への波及効果

- ・ 人権・道徳の公開授業をはじめ、体育祭・文化祭など機会あるごとに参観していただくことにより、本校の教育活動や生徒の様子などを委員の皆さんを通して地域へ情報発信できた。
- ・ 各回の学校運営協議会たよりを校区内の全地域に自治会長を通して回覧していただくことで、委員の皆さんと地域の方々との接点生まれつつあり、委員の皆さんを通して学校と地域のネットワークが広がってきている。

<グラフ>地域や保護者に授業や行事などを参観していただくことはよいことである
(H.18～20年度 生徒アンケートより)



4. 今後に向けて

学校組織(校務分掌)を見直したことで、学校運営協議会に対し、学校が説明責任を果たし、その意見を学校運営や教育活動に反映させるシステムが機能しており、委員の皆さんが学校運営に参画する仕組みを整えることができた。また、本校の教職員の意識改革も進んでおり、地域に開かれ信頼され、地域に支えられる学校づくりが進められている。

一方、学校・家庭・地域のネットワークの広がりや深まりはまだ十分であるとはいえない。今後も学校と家庭・地域が協働しながら「地域の生徒は地域で育てる」組織体制づくりを進めていく必要がある。

そのため、次の3点を今後の課題とし、改善の方向を考えて生きたい。

学校・家庭・地域のネットワークの広がり

委員の皆さんとPTA、地域の方々との結びつきはできつつあるが、学校運営協議会の保護者への周知は十分でない。今後は、学校運営協議会と保護者とのコミュニケーションが十分取れるよう、PTAとの連携の方法を工夫したい。

また、この地域は、自治会、社協、青少協などの地域団体がしっかり活動しており、学校運営協議会とこれらの地域団体とが協働する方策についても考えたい。

地域人材の活用

委員から、「機会があれば、地域の中で力を貸してくれる人はたくさんいると思う。」との意見も出されている。現在の学校運営上の課題の解決や教育活動をさらに充実させる上での必要な支援などを整理し、地域の人材活用について検討していきたい。

地域行事への生徒の参加のあり方

地区社協の「ふれあい広場」、本校を会場とする地区防災訓練などの地域行事への中学生の参加を望む声がある。特に防災の活動においては、中学生もその一端を担う人材としての期待も大きく、部活動との日程調整など、クリアすべき課題は多いが生徒の参加について検討していきたい。